



平泉 中尊寺
ちゅうそんじ

奥州藤原氏の
栄華輝く
平泉

世界遺産平泉と二大溪谷の旅。



一関 巖美溪
げんびけい

伊達政宗が賛美し、
数多く訪れた
巖美溪



一関 猊鼻溪
げいびけい

渓谷に響く、げいび追分
情緒豊かな溪谷美

日本史の舞台「平泉」
 今から900余年昔の平安時代末期、東北の政治・文化の中心として栄えた平泉。奥州藤原氏によって築かれた仏教都市の面影を今も感じることができます。
【世界遺産・平泉】
 中尊寺・毛越寺・旧観自在王院庭園、無量光院跡・金鶏山

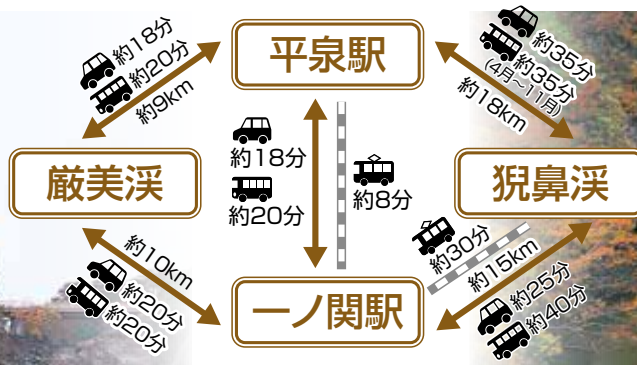


平泉 毛越寺



味 盛り出し式
平泉わんこそば

一度に24個のお椀に並べて出す、「盛り出し式」は「平泉方式」とも呼ばれ、自分のペースで味わえるわんこそばです。秀衡塗の椀で味わう事ができます。



げんびけい
厳美渓 (名勝・天然記念物)

2キロにわたって続く渓谷は、奇岩怪岩が顔を出し、滝あり深淵ありと変化に富んでいます。春夏秋冬の季節も美しいですが、常緑の木々の中に紅葉が混じりあう晩秋の風景はひとときわ印象的です。かつて仙台藩主・伊達政宗公が、「松島と厳美がわが領地の二大景勝地なり」と自慢しては、度々この地を訪れました。渓谷周辺の散策をお楽しみください。(散策の所要時間約60分)

厳美渓の団子

厳美渓には個性あふれるお団子屋さんが三軒ありますが、中でも対岸からロープウェイに乗ってやってくる「空飛ぶだんご」は有名。



げいびけい
狢鼻渓 (名勝・日本百景)

日本百景の一つに数えられるげいび渓は、砂鉄川が石灰岩を浸食してできた、高さおよそ100mの断崖絶壁が兩岸にそびえる長さ約2キロの渓谷です。棹一本で船を操る船頭が謡う「げいび追分」を聞きながら舟下りをお楽しみください。四季折々の色彩と風情を堪能できます。(舟下りの所要時間約90分)

アユ塩焼き

舟下りと一緒に味わいたいの、アユの塩焼き。風景を楽しみながらほおぼる自然の味はまさに格別です。



味 もち



一関・平泉の地域では、お正月や年越しに限らず、農作業や年中行事・結婚式・葬儀の際にも、もちを食べており、古くはもちに関する行事を記載した「もち暦」というものが存在します。あんこ、ごま、くるみ、きなこ、くり、大根おろし、納豆、ずんだ、沼えび、山菜、じゅうね、かぼちゃ、しょうが・・・食べ方のバリエーションが豊富で、その数なんと300種程と言われており、その多彩さは日本一！最近では、創作もち料理も人気です。ぜひ一度ご賞味ください。

一関温泉郷



国道342号沿いに湧く8つの温泉で構成される温泉郷。みちのくの名湯として古くから湯治場として親しまれてきた温泉や周囲を彩る自然の表情も個性的な温泉などさまざま。のんびり、ゆったり、心までホッとする真心の湯の里です。お湯で身も心もリフレッシュしてください。

観光モデルコース

Aコース (1泊2日)
 中尊寺 [所要時間90分] — 毛越寺 [所要時間60分] — 昼食 — 厳美渓 (団子食べ歩き) [所要時間60分] — 一関温泉郷 (宿泊) — 狢鼻渓 (舟下り) [所要時間90分]

Bコース (日帰り)
 中尊寺 [所要時間90分] — 厳美渓 (昼食・おやつ) — 狢鼻渓 [所要時間90分]



自動車でのアクセス

浦和本線	約4時間20分 (420.3km)	4	平泉
仙台宮城IC	約56分 (87.9km)	342	厳美渓
盛岡IC	約56分 (91.8km)		狢鼻渓
青森IC	約2時間55分 (259.2km)		

お問い合わせ

(一社)一関観光協会 (駅案内所) TEL 0191-23-2350 FAX 0191-23-0066
 〒021-0867 岩手県一関市駅前1

一関市商工労働部商業観光課 TEL 0191-21-2111(代) FAX 0191-31-3037
 〒021-8501 岩手県一関市竹山町7-2
 E-mail shokan@city.ichinoseki.iwate.jp http://ichitabi.jp/



▲いちのせき観光ナビ「いち旅」はこちらから